

親鸞聖人七百五十回御遠忌法要趣意書

平素は光善寺の護持、御崇敬に対しまして、御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本願寺八代御法主蓮如上人は、文明七(一四七五)年八月二十一日に福井県吉崎をお立ちになり、同年の九月五日に出口の地に來られました。御厨岩見入道光善が草坊を建立され、蓮如上人のお越しをお待ちしておりました。蓮如上人は出口に滞在された約三年の間に撰津・河内・和泉の三国や畿内各地へと広く教化の足を運ばれました。その後、京都の山科にお移りになられ、出口は嫡男順如上人に託され大阪における教化の中心となりましたのが光善寺であります。

光善寺は蓮如上人が來られてから約五四〇年の歴史を重ねてまいりました。この間には、東西分派や、自然災害など様々な困難がございしましたが、御門徒の皆様様の御尽力によりこれらの難局を乗り越えて現在の姿を維持させて頂いております。

御本山におきましては、平成二十三(二〇一一)年に親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が厳修されました。しかしながら三月十一日に東日本大震災が起こり、三月は被災者の集い、四月、五月は法要を縮小して御遠忌法要が厳修されました。

光善寺におきましても、親鸞聖人七百五十回御遠忌法要並びに、蓮如上人御來地五百五十年の御法要を厳修致したく存じます。この記念事業と致しまして、親鸞聖人が顕かにされました、本願念仏の御教えを受け伝えていく聞法道場である本堂の修復、耐震工事等を行います。

現在の光善寺本堂は天明二(一七八二)年八月に建立し、約二百年三十年の間、台風や地震にも耐えて現在に至っております。しかしながら長年の月日により屋根は支えを必要とし、傷みがひどくなっております。この本堂を後世にまで残すために、屋根と内陣の修復、耐震工事等を致しますと、工事見積りとして約三億円の予算が見込まれております。この金額を一度に集めることは、昨今の経済事情から見ましても大変厳しい事と存じます。十年を目途として寄付を募りたいと思っております。

御門徒の皆様におかれましては、経済的に厳しい折とは存じますが、どうかこの趣旨を御理解頂き、ご寄付をいただきますようしくお願ひ申し上げます。

合 掌

平成三十年六月吉日

住職
総代

藤原 忍

友田 孝興

井上 栄樹

井上 憲一

浦田 正孝

林 健仁

井上 英夫

伴 武明

溝口 一男

皆見 昌宏

南森 勲